

解 説



第26回品質工学研究発表大会振り返り

Review on the Papers in the 26th Robust Quality Engineering Society Annual Meeting

明吉 秀樹*¹
Hideki Akiyoshi

中島 建夫*²
Takeo Nakajima

浜田 和孝*³
Kazutaka Hamada

吉澤 正孝*⁴
Masataka Yoshizawa

田村 希志臣*⁵
Kisbio Tamura

1. 研究発表大会授賞研究の振り返りにあたって

田村(進行) 審査表彰部会として第26回品質工学研究発表大会 (RQES 2018S) で公益財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞発表賞金賞、銀賞、ならびに品質工学会会長賞、研究発表大会実行委員長賞の各賞を授賞した研究発表について、その研究の魅力や価値、研究に対する期待、また、さらにその研究を深めていくための課題などについて討論したい。発表賞を授賞する研究はわれわれ審査表彰部会が勝手に決めている訳ではなく、研究発表大会が開催される度に20名前後の発表賞審査委員による審査委員会を組織して、そこで審議して決めている。第26回大会にて授賞した各研究に対する授賞理由を、すでに学会誌 Vol.26, No.5 の会告に掲載済みである。ここではそれを繰り返すのではなく、皆様それぞれの研究に対する率直な評価を聞かせていただき、討論していきたい。研究のあら探しではなく、それぞれの研究の魅力、面白さを語りたい。発表した本人も気付いていないような魅力や価値がたくさん含まれているのではないかと思う。この振り返りの

討論が、発表賞を受賞された皆さんはもちろん、他の品質工学会員諸氏においても、あらためて品質工学の魅力に気付く機会になることを期待している。それでは、さっそく発表賞金賞受賞研究から始めることにする。

2. 金賞：ヘミング曲げ金型における成形技術の向上 [発表番号13]

長澄徹侍*¹、松村春樹*²、安楽健次*³、中山光一*²、中西康夫*²、橋本智広*²、上岡紀行*³、松野勇二*³ (*¹マツダ(株)、正会員、*²マツダ(株)、*³(株)ヒロテック)

田村 発表賞金賞は発表番号13のマツダの長澄氏らによる研究だ。この研究については、発表賞審査委員の中でも評価点はかなり高かったと記憶している。

吉澤 そうだ。ほとんどの審査員が上位に評価していた。

田村 皆さんはどういった点を高く評価したか。
浜田 予稿を見るとまずバーチャルパラメータ設計 (VPD) を行って優先検討すべき制御因子を抽出し、次にCAEによるパラメータ設計を行い、最後に実型で確認を行うというプロセスを取っている。また、図2 プレス成形の工程によると、2016年、2017年の大会では、前工程であるドローイング、トリム&リスト、フランジの3工程のパラメータ設計を行い、その成果を受けて今回の取組みとなっている。通常

*¹ 元(株)リコー

*² 元東京電機大学

*³ Hamada Quality Solution

*⁴ クオリティ・ディーブ・スマーツ(有組)

*⁵ コニカミノルタ(株)